

「三徳の家庭菜園」 ③4

【甘長トウガラシ】

～優れた食味で、ポリウム感があって辛いトウガラシ～
甘長トウガラシは、中南米を原産地とするナス科トウガラシ属トウガラシの甘味種で、「万願寺トウガラシ」や「伏見とうがらし」に由来する系統・品種群です。

生でサラダにも使えるし、素焼きや炒め物、煮物といずれにも適しています。特に猛暑の夏に、素焼きして出汁醤油とマヨネーズや味噌で食べるとビールつまみに最高です。

整枝は、ピーマンやシシトウと同じで、1番花のついたわき芽は強く伸びるので、そのまま伸ばし、それより下のわき芽は早めに摘み取ります。また、主枝の2番花がついた節のわき芽と、最初に伸ばした側枝の1番花の節のわき芽の計4本を主枝として育てます。

これらの主枝に合わせて支柱を立てるか、高さ60cm程の高さにフラワーネットを張って、主枝が実の重みで裂けないようにします。4本の主枝を決めたら、それから以降は混み合っている部分の貧弱な側枝を間引いて、株全体に日が当たるようにします。



●4本の主枝が決まり、収穫期に入った甘長トウガラシ。*枝が実の重みで裂けないように、フラワーネットを畝面より60cm程の高さに設置している。畝面には、乾燥防止のために麦わらを敷いている。

追肥は、1番果の収穫時から始め、1回当たりのチッソ成分量を10a当たり2kg程度として2～3週間間隔で施します。乾燥は尻ぐされ果の原因になるので、畝溝が常に湿った状態になるよう管理するなど、かん水を小まめに行うと共に、畝の上に麦わら等を敷いて乾燥防止に努めます。

福岡県農業大学校 嘱託職員 林 三徳



杉山絵の教室 紅彩会員 松岡 美代子 (筑後市久富)

若いころから絵を描きたいと思っていたので退職間近に「紅彩会」に入会しました。「世界でただ一点の自分の絵を描く」という会の方針により、人の真似することから解放され、気楽に絵が描けるようになりました。
会員の方たちの日常生活の四方山話も楽しく、今後の人生にも張りが出て来ました。
杉山先生の「絵を描くことはすべて画家。描く技術とか方法のきまりは一切ない。材料もすべて自由」という指導に、はげまされています。
この絵はクレパスで描きました。友人と訪れた『由布岳』です。重ね塗りをくりかえし、それをナイフで削り、未知の色彩の出現におどろき、よるこんでいます。
路傍の一木一草にやどる美を発見し、健康な人生を過ごすために、今後も絵を描き続けるつもりです。

山登りだよ人生は！ 平治岳 2016.6.6



大分県のくじゅう連山で、6月5日夏山シーズンを告げる「山開き」が行われた。今年は熊本地震の影響を受けて、開催が危ぶまれたが「風評被害をなくし、安全をアピールしたい」と開催を決めたそうだ。

私達はその翌日、登山口をスタートしたものの、雨が降るあいにくの天気だ。途中新緑に癒されて山頂直下に到着し、ここで天気が回復するのを待つことにした。そしてチャンスと判断し山頂をアタックしたが、登山道はズルズル状態で最大難所をクリアして4時間で平治岳(1643m)に到着した。すると登山者だけにご褒美が待っていた。

今年のミヤマキリシマは実に素晴らしく、見事な開花に「すご～い最高～！」の歓声が聞こえてきた。山仲間間で玉名市から参加された西本守さん(70)は「初めての経験で感激しています」と話していた。 八女文化連盟写真部 樋口 清人



「しあわせな時間」をテーマに、会場内では自由に手にとって読みたい絵本約1000冊を展示。絵本の世界を立体的に展開。親子、仲間同士で感動を共有できる空間を作ります。観るだけでなく、触ったり、耳をすましたり身体全体を使ってファンタジーの世界を楽しめる構成となっています。



NTT西日本スペシャル おいでよ！絵本ミュージアム2016

8月の道の駅たちばな ひるよけ夏祭り 8月7日(日) 午後3時～午後3時 たちばな縁日

会場 福岡アジア美術館 福岡市博多区下川端 リバレンセンタービル7F・8F 観覧料 一般 1,000円 高大生 700円 小中生 500円 未就学児は無料

八女川柳会 風化などさせてはならぬ原爆忌 ケロイドが語る悲しい八月忌 死の灰の悲劇日本の原爆忌 原爆忌昭和の悲劇しみ出る 九条と反核が基礎平和祭 オバマさん被爆者と抱擁感無量 七十年絆深めた大統領 大統領折り鶴捧ぐ節目年 昭和史の風化許さぬ原爆忌 震災も続く列島原爆忌 ひろかわ俳句会 梅雨晴間満艦飾の干し場かな 雨傘を日傘に嬉々と梅雨晴間 灯明の少しゆらぎてつゆ寒し 梅雨晴間雲湧き上る里の山 濡れ荷詫び宅急便は梅雨寒し 青葙の覆ひかくせり座礁船 時鳥一直線に泣き渡る 夏椿今日のひと日の始まり 亡き犬の居た場所ひろし梅雨最中 亡き父と逢ひし今宵の蛍狩り 梅雨晴れ間物干し竿の鮮やかに 梅雨のあめ罹災地阿蘇に容赦せず 筑後俳句会 夕蛙草をたわしに鍬洗ふ 梅雨雲を零れ出でたる星ひとつ 聖母月夫に叙勲を賜れり 詰め将棋梅雨を樂しむ友を得て 老鶯の声に誘はれ山に入る 錦鯉の頭の牡丹紋池に咲く あめんぼの水輪ぼつぼつ雨兆す 野仏の御座す頭上の花楓 黒木町くすの実俳句会 初夏に見る剥落の街青シート 海に浮く朱の社殿や青葉潮 復興の聞こえぬままにさみだるる 母の忌を修し一夜を蛸宿 さみだれや時刻む音ひとり聴く 十二個の燕の巢有り商家軒 窓叩くさみだれの音妻恋し 茶摘み終へしずく茶の味かみしめる